

令和元年度 福岡県地域福祉活動職員連絡会 事業計画

(1) 方針

『地域共生社会の実現』という言葉が、社会福祉協議会の活動に新たなキーワードとして注目される中、様々な事業を細分化して、専門特化して担っていると、そもそもの『地域福祉の推進』や『コミュニティワーク・コミュニティソーシャルワーク』がその根底にあるということを忘れがちになってしまいます。ただ、介護保険事業や日常生活自立支援事業、生活支援体制整備事業や総合相談など、社会福祉協議会がそれを担うことの意義や強みを理解しなければ、社会福祉協議会も一事業所としてしか認識されない可能性があります。

私たちは、地域福祉を推進する上で、住民や地域が主体となり、そこに住む人たちが抱える困りごとや暮らしづらさを解消し、皆が幸せになれるよう支援していくという、我々にしかできないミッションを抱えているはずです。

今年度は、私たちが日常的に行っている事業を振り返り、社協職員として、コミュニティワーカーとしての視点で、地域と関わっていけることを目的に事業を計画いたします。

市町村によって、その歴史や文化、考え方、事情も異なります。様々な疑問や考え方、方法、自分の軸となるものを、他社協の仲間から吸収し、またはそれを放出していく場として、この地職連という組織が在れるよう、皆様の主体的な参加をよろしくお願いします。

(2) 具体的な事業内容

【研修事業】

「先輩ワーカーから学ぶ研修会」(令和元年度地職連総会後の研修) -----

長年、社協で活躍された先輩ワーカーが、これまでの社協人生をふり返って今思うことや後輩たちに伝えたいことは…。

これからの社協はどこにどう向かって進んでいけばよいのか、講師の考えを学び、これからの社協を担う私たちの指針を得る機会としたいと思います。

- ▼日 時／令和元年 5 月 31 日 (金) 15 時 30 分～17 時
- ▼会 場／JR 博多シティ 会議室
- ▼対象者／社協職員
- ▼内 容／「先輩ワーカーから学ぶ研修会」
- ▼講 師／寝屋川市社会福祉協議会 生活支援課 課長 高橋 俊行 さん

「新任職員研修」-----

福岡県地域福祉活動職員連絡会では、研修事業と広報活動を中心に『コミュニティワーク』を主に研修を行っています。コミュニティワークは地域生活において生ずる個人や地域の課題解決に向けて取り組むとともに、地域や住民の方々の相談窓口となるには人間関係を構築する必要があります。しかし、信頼関係を築くのは容易ではなく「地域の方々とどうやって関わればよいか」「(先輩方は) どうやって人間関係を築いてきたのか」という声を聞きます。

そこで、今年度の新任職員研修では、相手への対応を配慮について、接遇を学ぶことで、職場内及び地域住民の方々との人間関係を築き、信頼される職員となるよう本研修会を行います。

- ▼日 時／令和元年 10 月頃開催予定
- ▼会 場／未定
- ▼対象者／社協職員 (入職 5 年以内の職員ほか)
- ▼内 容／「先輩ワーカーから学ぶ研修会」
- ▼講 師／全日本仏教青年会 顧問 米沢 智英 さん

「社協が〇〇をする意味～社協の主体性について問う研修会～（仮）」-----

近年、人口減少・少子高齢化や社会的孤立・格差の福祉課題が深刻化すると同時に、地域包括ケアシステムや生活困窮者自立支援事業、社会福祉法人改革、改正社会福祉法、地域共生社会…など、福祉課題を地域住民の力で解決し、住みやすい地域づくりを住民主体で構築していくという視点が強くなってきており、その支援者として社会福祉協議会が期待（要求？）されています。

しかし、住民主体を謳っている我々社会福祉協議会の「主体性」とは一体どういうものでしょうか。法律改正や時代の変遷に流されるまま、「地域福祉をするのが社協」「総合相談を受けるのが社協」「介護保険事業を実施するのが社協」など、いつの間にか「〇〇をするのが社協」だと思い込み、その「社協が〇〇する」という意味や本質を見失ってきているのではないのでしょうか。

この研修会では、社会福祉協議会という組織や役割について改めて振り返り、社協が地域福祉を推進することの意味やそのために行っている事業の本質を学び、「社協が〇〇をする」という意味について考えていきたいと思います。

▼日 時／令和元年 9 月頃

▼会 場／未定

▼対象者／社協職員

▼内容・講師／大津市社会福祉協議会 山口 浩次 さん

東近江市社会福祉協議会 真弓 洋一 さん

ローカリズム・ラボ 井岡 仁志 さん

「他機関連携による地域福祉について社協と生協で語り合う」-----

平成 2 9 年吸収北部豪雨、平成 3 0 年 7 月豪雨による災害では、社協はもちろんのこと、様々な団体や企業が被災者の支援を行い、復興に向けた活動が展開されました。被災者のニーズ把握やボランティアのマッチングなどが社協を中心に行われる中で、仮設住宅で暮らす被災者などへの人的・物的支援は生協などの団体が大きな役割を担ったと思います。

このように災害支援だけでなく、社協は複雑・多様化する地域住民の困りごとを解決していくために生協などの他機関と連携し、お互いのできることを補いながら取り組んでいく必要があります。

そのため社協や他機関（生協等）が地域福祉の実現に向けた理想や目標を共有し、お互いに何ができて・どんなことを求めるのか。共に歩むべき方向性について語り合いたいと思います。

▼日 時／令和 2 年 1 月頃

▼会 場／未定

▼対象者／社協職員・生協職員

▼講師（コーディネーター？）／桃山学院大学 教授 小野 達也 さん

うきは市社会福祉協議会 在宅福祉課 課長補佐 國武 竜一 さん

【会議の開催】

■福岡県地職連令和元年度全体会議の開催-----

地職連では現在、研修事業と広報活動を中心に『コミュニティワーク』にこだわった事業を実施しています。他市町村社協の活動や手法を知ることが必要ですが、どんな考えをもってその活動や事業に取り組むのか、といった議論を地元の社協内ですることがなかなかないという声も聴きます。外だから話せる自分の「考え方」を共有することで、新たな「考え方」が生まれてくることもあります。

今年度の全体会議は、原点に立ち返り、業務の中で行き詰っていることに関する考え方の整理や新たな視点などを同じ立場のワーカーから吸収し、考え方を固めるための会議の開催を予定しています。

▼日 時／令和元年 6 月 28 日（金） 13 時 30 分～17 時

▼会 場／クローバープラザ 502 会議室

▼対象者／社協職員

▼内 容／テーマを選別し、参加者間で意見交換会議を行う予定

■福岡県地職連令和元年度全体会議の開催-----

社協はその性質上、まだまだ日の目を見ていない様々な福祉課題に関わっています。しかし、先駆的に取り組んでいく上で「実際この方法で良いのだろうか」、「本当にこの人のための活動になっているだろうか」、「そこに社協ワーカーとしての視点が入っているだろうか」など、様々な自問自答や戸惑いを感じている方も少なくはないのではないのでしょうか。

県内には同じような悩みを抱えているワーカーもいます。そこで同じ悩みを持つワーカー同士の情報共有、悩みを共有する場として、必要に応じ委員会の設置や会議及び研修会等を開催します。

また、自主研修活動をより一層盛り立てていくために、地職連より助成を行います。助成条件は以下のとおりです。

※上限は1回あたり5万円とします。

【自主研修会助成条件】（以下の全ての項目を満たすもの）

- ①社協ワーカーの資質向上やつながりづくりを目的として開催されること
- ②参加の呼びかけは地職連 Facebook 等を活用して県内全体に行うこと
- ③開催要項（案）と予算（案）を開催日の1か月前までに会長に送付し、承認を得ること
- ④研修参加者が3社協6名以上であること

【広報事業】

■会報「まなこ」の発行-----

会報「まなこ」は、本会が発足当初から、社協ワーカーとしての思考・視点で書き、社協ワーカーが地域で活動する上での思いや主張を語る場として発行し続け、全国の市町村にも送り続けています。

今後も、地域の中で福祉課題を抱える人たちの思いや地域の課題に取り組むワーカーの思いを伝えるために、発行したいと考えています。県内ワーカーの主観的な参加を促し発行します。

▼7月、11月発行予定

■ホームページ、Facebook の運営-----

地職連のホームページについては、Yahoo!ジオシティで運営しておりましたが、平成31年3月をもってサービスが終了し、現所在地職連ホームページはない状況です。ですが、「まなこ」のバックナンバーや研修等の情報発信については、Facebook では限界があり、今後何らかの方法で発信していくツールを役員会の方で検討いたします。

また、Facebook については、タイムリーな情報発信のツールとして今後も運営を続けます。

【その他の事業】

■全国社協職員のつどい参加促進-----

▼主 催／関西社協コミュニティワーカー協会

▼日 時／未定

▼会 場／大阪府（会場未定）

▼内 容／未定

※つどい参加にあたり、地職連では旅行等の補助を出すようにしております。詳細が決まり次第お知らせします。

■福岡県社協との連携-----

広域社協である県社協との連携を深め、意見・情報交換の場を設け、課題を見据えながら必要に応じ研修会の共同企画などを行っていきます。